

1 研究テーマ

中学校国語科における言語活動の充実を図るための指導の工夫

～単元構想表を活用した取り組み～

2 はじめに

中学校の国語科においては、社会生活に必要な国語の能力の基礎を身に付けることが求められている。そのため、具体的な言語活動を通して指導事項を指導することが大切である。社会生活に必要とされる発表・報告・編集・観賞・批評などの言語活動を確実に身に付けることができるように継続的に指導していく国語の授業へと改善を進めたい。

3 研究目的

所属校の「学力向上」にむけて言語活動の充実をめざして、学習指導要領における指導事項に基づき単元を貫く課題解決的な言語活動を、ねらいを達成するための手段として位置付けた指導の工夫について研究する。(図1参照)

4 研究内容

(1) 中学校国語科における言語活動の充実のために単元構想表を活用する

授業を構想する要素を踏まえ、系統的な指導を意識して課題解決型の言語活動を設定した授業を実践するために、「単元構想表」を活用する。単元構想表は、指導事項と学習活動が一体となっているため、それに基づく学習過程を意識した学習の流れを構想することができる。

(2) 学習過程の明確化

生徒が学習の見通しを持って主体的に取り組むために、学習の手引きを示す。また、ワークシートを活用して思考を整理したり、考えをまとめたりさせる。

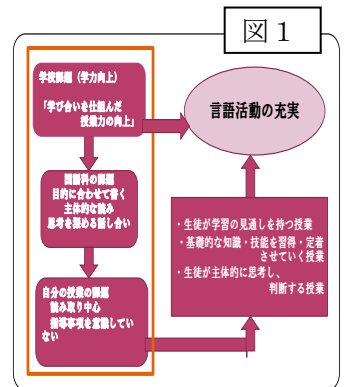
(3) 座席表を活用した生徒への支援

学習状況を確認して座席表に記入し、生徒への支援のため活用する。

(4) 検証授業の実践(第2学年)

①実態把握【学力分析(平成25年度教研式標準学力調査 NRT より)と授業観察】

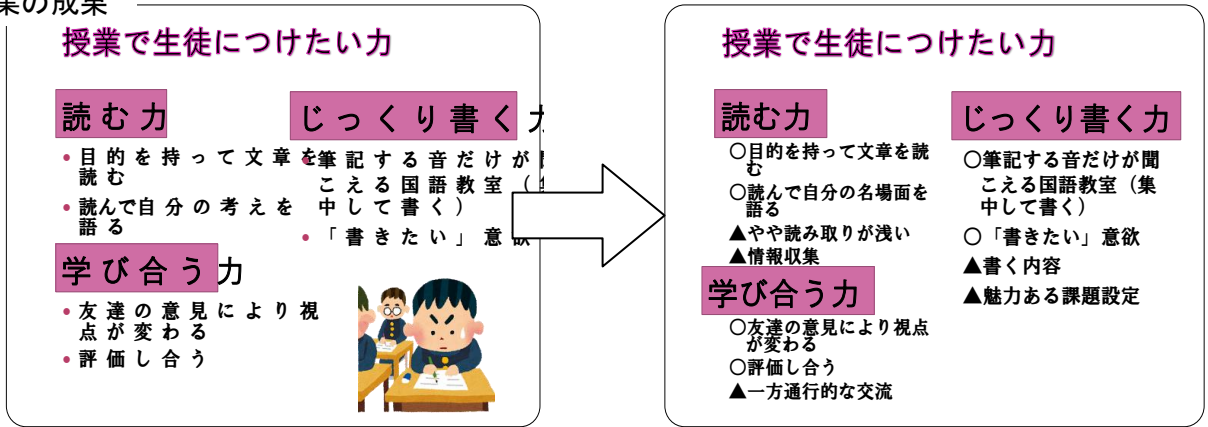
②「単元構想表」を活用した授業構想と授業実践(第2学年 教材名『走れメロス』)



単元構想表 文学的文章を読んで感想を交流しよう ～根拠を明確にして自分の考えをまとめる～

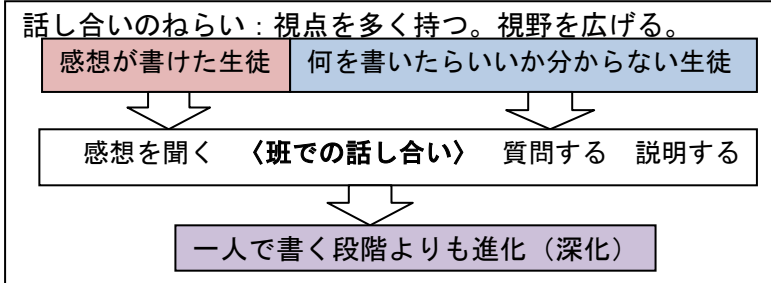
言語活動例	ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。			
指導事項	重点化	学習活動	評価規準	留意点
導入		文学作品の紹介を聞き、学習のめあてをつかむ。 ととりの授業改革【10の視点】 ①魅力的な課題・教材の提示		自分が選んだ文学作品の名場面の紹介の仕方を教師がモデルとして示す。
ア	自分が選んだ名場面を、根拠をもとに紹介しよう。	登場人物の心情を表す語句や文章に線を引きながら全文を読む。 線を引いたところをもとに、メロスの人物像をワークシートにまとめる。	登場人物の心情を表す語句や文章に着目して読む。(ワークシート)	教師の総括を聞きながら、心情を表す語句や文章に線を引くよう指導する。
イ		前時にまとめたワークシートをもとに、メロスの人物像についての自分の考えを話し合い、心情の変化をもとに、場面の展開を読み取る。 ととりの授業改革【10の視点】 ④思考の整理	心情の変化をもとに、場面の展開を読みとる。(発表)	
ウ		前時までにまとめたワークシートをもとに、『走れメロス』について、自分が名場面だと思うところを選び、作文の形にまとめる。 グループで書いたものを読み合う。	感想を交流するために、物語の構成や展開、描写や比喩などの表現について、具体的な部分を取り上げて考えをまとめている。	自分の考えの根拠になることは前時までのワークシートや発表内容をもとに書くように助言する。
エ		自分が選んだ作品の主人公の心情の変化や場面の展開をもとに、名場面を紹介する作文を書き、グループで交流する。 ととりの授業改革【10の視点】 ⑤家庭学習と運動した学習の定着 学校で学んだことが家庭での復習や予習、自主的な学習につながるような支援に努める	物語に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて感想をまとめ、交流して深めている。	自分の考えの根拠が明確であるかどうか、自分の書いた作文と比べながら友達との作文を読み感想をまとめている。(ワークシート)
オ		多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。 読書と情報活用		
関連する【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】	(1)イ(イ)	抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。	未知、慣熟、慣熟、慣熟など抽象的な概念を表す語句を取り上げて、それが表す具体的な中身について考えている。(ノート、観察)①	
国語への関心・意欲・態度に関する評価			物語について感想をもち、交流して考えを深めようとしている。	具体的な内容や表現を明らかにしながら自分の考えを説明し交流して考えを深めようとしている。(ノート、観察)②④

### ③検証授業の成果

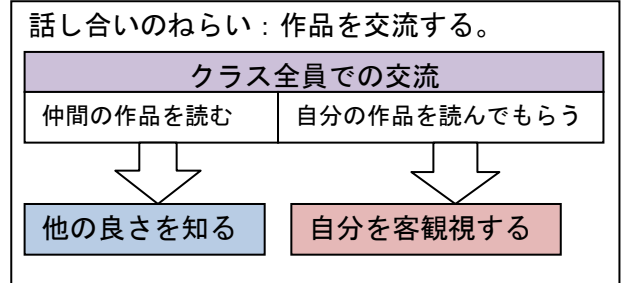


- ・根拠を明確にして名場面を紹介するという目的を持って文章を読み、読み取ったことをもとに自分の考えを伝えることができるようになった。
- ・目的を明確にした単元を構想することで、生徒が書きたいという意欲を持って集中して書くことができるようになった。
- ・話し合い活動が効果的な学び合いの場となった。〈話し合い活動①・②参照〉

#### 〔話し合い活動①〕



#### 〔話し合い活動②〕



### ④検証授業の課題と今後の取り組み

- ・教科書教材から学んだことを文学作品の読み方として定着させ、読書生活に生かす。
- ・社会生活で求められるレベルまで書く内容の質を高め、字数を増やしていく。また、書く意欲喚起のための書く題材の精選を進める。
- ・双方向での話し合いで学び合いを深め、ねらいに応じて多彩な話し合い活動を仕組んでいく。

## 5 研究のまとめ

### (1) 言語活動の位置付け

「いつ」「何を」「どのように」学ばせるのかを考え、単元構想時に単元を貫く課題解決的な言語活動を、ねらいを達成するための手段として位置付けた**単元構想表**を活用することは効果的である。

### (2) 学習過程の明確化

生徒が学習過程を意識して取り組むための**学習の手引き**や**完成物のモデル**を提示することによって生徒自身が何を目標に取り組んでいくのかが明確になった。

### (3) 生徒への支援

**座席表**を活用することにより、個に応じた指導や学習評価を継続的に行うことができた。

## 6 今後の課題

### (1) 言語活動の連続性

単元構想表を活用し、**言語活動の連続性**を考慮した指導計画を作成する。また、小学校段階からの**既習事項を活用した学習**を工夫する。

### (2) 書くことへのゴールイメージの持たせ方

**社会生活に必要とされる作文の内容や質向上させる**ために、教科書教材だけでなく学校行事や話題となっていることをとらえ、生徒が意欲を持って取り組める年間指導計画や単元計画を工夫する。

### (3) 生徒同士の支援

ねらいを達成するための、**目的が明確になった話し合いの場**を設定し、学び合いの質を深める。

## 7 おわりに

「単元構想表」を活用することで、「**継続的に行う言語活動**」を積み重ねることができると思う。さらに生徒の言葉の力を豊かにする授業づくりについて研究を深めていきたい。